



エクスタロット ルールブック

エクスタロットの遊び方コンテスト参加作品

017 アルカナ・ド・ボン

中野ハジメ

エクスタロットの遊び方コンテスト参加作品

ゲーム名：アルカナ・ド・ボン

バージョン：v1.00

考案者：中野ハジメ

受付日：2018年3月1日

概要 手札を早く無くした人が勝つゲーム

プレイ人数 3～8

使うカード 88枚

参照ルール どぼん、ページワン

ゲームの目的

手札を先に無くした人が勝ちです。大アルカナは五番目のスートになります。

使うカード

各スート0から15までの札64枚と大アルカナ24枚の計88枚。

プレイ方法

親をジャンケンなどで決めます。親はカードをシャッフルしてプレイヤー全員に5枚ずつ手札として配り、残りを裏返しで山札にします。

最初、親は山札の上から1枚を表にして場に出します。これを場札といいます。以後は、この場札の上に他の札を重ねていきます。親から始めて時計まわりにプレイします。

プレイヤーは、次のうちどれかを行います。

- (1) 場札と同じスートの札を1枚、手札から出して場札に重ねる。
- (2) 場札と同じ数字の札を1枚、手札から出して場札に重ねる。
- (3) 手札を出さずに、山札の上から1枚を取って手札に加える。

このどれかが終わったら、次のプレイヤーの番になります。

この手順で手札を出した結果、手札が無くなることを「あがり」といいます。

プレイ中、順番に関係なく、他のプレイヤーが出した場札の数字と、自分が持っている2枚以上の手札全部の数字の合計が同じとき、いきなり手札全部を出すことができます。このことを「どぼん」といいます。これはスートに関係ありません。たとえば、場札が6で手札が1と2と3のとき、「どぼん」が可能です。「あがり」になったプレイヤーが出した場札に対しても、「どぼん」ができます。

自分が出した場札で他のプレイヤーが「どぼん」をした場合、そのときに限り、自分も「どぼん」をすることができます。たとえば、手札が3と5と8で、8を出して、その8に対して他のプレイヤーが「どぼん」をしたとしましょう。このとき、自分も3と5で「どぼん」ができます。

発声について

手札が1枚になったら「リーチ」と発声します。「あがり」のときは「あがり」と発声します。「どぼん」のときは「どぼん」と発声します。以上はゲームの状況をはっきりさせるためのマナーですが、言い忘れてもペナルティーはありません。

ゲームの終了と勝敗

「あがり」又は「どぼん」が発生して手札が無くなった人がいたらゲーム終了です。そのプレイヤーの勝ちです。複数人いる場合は、いずれも勝ちです。

「あがり」と「どぼん」が発生したときは、競争ではなく両立します。複数の「どぼん」も両立します。それらのプレイヤーは、いずれも勝ちになります。

山札が無くなったときは、プレイヤーがそれを手札に加えた時点でゲーム終了です。手札がもっとも少ないプレイヤーの勝ちです。

全体の順位を決める必要があるときは、手札の枚数が少ない順になります。手札が同じ枚数のときは同点です。

追記

大アルカナには数字が大きなものもあって、不用意に出すと「どぼん」を狙われる危険が大きくなります。ただ、返し技もあるので、出すタイミングを考えると面白いと思います。

元々の「どぼん」やその元になった「ページワン」という遊びには、プレイの順番を変えたり山札を強制的に取らせたりする特別なルールがあるのですが、そういったものは省略しました。

ルール募集

エクスタロットを使ったゲームのルールを募集しています。応募のあったルールは、エクスタロットのプレイに適しているか審査され、考案者の氏名、受付の日付とともに pdf で公開されます。考案者は、すでに掲載されたルールを修正・改良することもできます。ルールの申請方法は、エクスタロット・ゲーム情報サイト(<http://xtarot.jp/>)をご覧ください。

エクスタロットは、友達とプレイしながら、ルールを面白く改良していくことを目標にしています。そのため、ハード（カード）とソフト（ルール）を分けています。エクスタロット・ゲーム情報サイトでは、最新のルールやカードの情報を紹介しています。

アルカナ・ド・ボン

著者 中野ハジメ

2018年 3月 2日発行 v1.00

発行者 有限会社銀河企画 (GPI.JP)

©2018 中野ハジメ／有限会社銀河企画